

天文学とプラネタリウム

第22回



今月のお題

飛行場で星を見る



広い敷地に寝転がって流れ星を見る。
そんな体験を、飛行場で実現。



www.tenpla.net

高梨直紘 (東大D1 / 天文学教育研究センター所属)

平松正顕 (東大D1 / 国立天文台ALMA推進室所属)

飛行場で観望会？

都会で星を見るのはなかなか難しいものです。至る所にあふれる明かりと高層建築が、私たちから夜空を奪っていきます。遠出すればきれいな星空も望めますが、天文イベントは曜日を選んでくれません。

国立天文台三鷹キャンパスのすぐ南には、調布飛行場という小さな飛行場があります。滑走路は800m、伊豆諸島への定期便や緊急用の小型機などが利用しています。照明設備はなく、夜間離発着はできません。そうです、夜間利用されない飛行場は、都市にありながら抜群の視界を持つ格好の星見スポットだったのです。

天ブラでは、調布飛行場内の喫茶店プロペラカフェと協力して、ふたご座流星群を見る会を開催しました。その名も「プロペラ星空観望会」。

ではそのときの様子を、東京学芸大学の塚田健君に報告してもらいましょう。

『初めまして、塚田です。当日は飛行場の説明と流れ星の簡単なお話をし、その後は自由に駐機場に散らばって星見の時間。シートや毛布に寝転がって流れ星を待つ人、望遠鏡で月や火星を見る人、皆さん思い思いの方法で星空を楽しんでいました。所々に広がる雲と満月で流星群を見るには少々不向きな空でしたが、流れ星を見た人からは歓声が上がリ、それなりの数の流星が見られたようです。子どもたちには「星空ビンゴ」を用意。スタッフを質問攻めにしながら沢山の天体を見ようとがんばっていました。カフェの中では温かい飲み物が配られ、MITAKAの実演も。今までにない新しいスタイルの観望会となったのではないのでしょうか。』



飛行機の前で記念写真を撮るスタッフたち。各々が自分の得意なところを活かして活動に参加しました。

天ブラでは、プロペラカフェとの共催事業を今後も続けていく予定です。飛行場と天文学、同じ空を見上げる者同士が協力して、両者の仲間を増やしていく。そんな素晴らしい関係を築いていけたらと思います。